

1

1 a

得意先

b

灯油

c

余命

2 亡くなつた

3 ②

息

⑩

荷

⑪

心

4

イ

5 (記述題)

6 人生を体当

7

エ

8

くるくるくる

9 イ

10

すべしくる

11

ウ

(完答)

2

1 a

酸素

b

照準

c

快適

2 ア

3

無限の

4

イ

5

ビジネス持つ

(完答)

6 欲望

7

(記述題)

8 ⑦

イ

⑨

エ

9

ア

10 A

イ

B

ウ

11

(記述題)

1

5

母を亡くした恐怖から自分のもと	を離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと
母を亡くした恐怖から自分のもと	を離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと
母を亡くした恐怖から自分のもと	を離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと
母を亡くした恐怖から自分のもと	を離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと
母を亡くした恐怖から自分のもと	を離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと
母を亡くした恐怖から自分のもと	を離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと	ためを離れようとした恐怖から自分のもと

(同意可)

2

7

自分たちのつくった過剰な消費社会を問題視し、消費こそを追い求める自分たちの生活スタイルを見直すこと。

(同意可)

11

資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無
資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無
資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無
資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無
資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無
資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無	資源の流動性を高めれば、非効率を排除して効率を高めれば、人間は無

(同意可)

【配点】
 11 11
 5 1 3
 2 2
 7 1 8 10
 各 各 各
 4 6 2
 点 点 点
 × × ×
 14 3 13
 || || ||
 56 18 26
 点 点 点

- 1 a 「得意先」は「商売の取引先」のことで、「自分たちの仕事をあてにしてくれるお客様」をさすことば。b 「灯油」は暖房用の燃料としてよく使われた。c 「余命」は「残りの命」のこと。「余命いくばくもない」という慣用的な言い回しも知っておきたい。
- 2 映画やドラマなどで、亡くなった患者に白い布がかけられる場面はめずらしくないが、そのことをたとえ知らなくても四行あとを読めば、もうすでに「母の死」がおとずれていたことはわかるだろう。あとは条件に合ったことばをさがせばよい。
- 3 ②は「目をこらして」だと、どこかを「じっと見つめて」いることになって場面に合わない。「息をこらす」は「呼吸をおさえてじっとする」という意味で、緊張感のあるようすを表す。⑩「肩の荷を下ろす」は「肩の荷が下りる」のかたちで知られ、「責任などから解放されて楽な気分になる」ことを示す。⑪「一心不乱」は「一つのことに心を注ぎ、ほかのことで心が乱れない」さまを表す。
- 4 自分の動き一つで母を死に至らせずにすんだのかもしれない、直後の一文から「私」がそう思っていることがわかるので、アとウは正しい。エの選択肢だが、ここだけではなく、八行前の「医者だとう」「注射が何度も打たれ、気がつくとう」という表現からも、この医者への不信感が感じられないか。死因も教えず、身内の大人を待つこともなく帰ってしまったこの医者の姿をわざわざ描いているのは、この医者に対する「私」の気持ちの表れだろう。「病氣」そのものへの無知を後悔しているわけではないので、答えは決まる。
- 5 直後にその説明が書かれているが、もちろんこのままでは説明不足である。伯母の心情を補って、うまく説明していきたい。妹の子が「かわいそうだと思った」、そして「育てよう」と決心した」のであり、そういった心情表現で答えてももちろんよいだろう。
- 6 いつも前を向いて生きていた義母の「後姿」はこの文章で印象的などころである。まだ問題を解く前の通読時において、その姿から「私」が何を感じていたのか、意識すべきところである。直後の「：」の後ろから付いて歩いた」から本文最後より二つ目の段落にある「義母の後姿」を結びつけて答えをさがす、という説明もできるが、いかに読むことができたかが求められる問題の典型である。
- 7 そもそもこの文章が、今は亡き「育ての母」＝「義母」を思い出して書かれたものであることを理解しておきたい。直接血のつながらない自分たちにも実の子と変わらない愛情を注いでくれた、その感謝の気持ちをこの文章から感じることができよう。「おしめ」は末の弟がはくもので、義母が夜中に繕っているようすが見えるし、「太巻寿司」は子供たちの行事のときに「必ず」出てきた。
- 8 「くるくると動いて」は文章の中に二度見ることができるといっても、やること山ほどあった」といっても、やるかどうかを決めるのは自身であり、義母は山ほどのことをやっていたということなのである。「くるくる」は「よく働く」さまを表すのにも使えることば。
- 9 直後の一文が「淋しい思い」の理由説明になっている。エの「どんな悩み事を相談しても」はさすがに言いすぎであろう。
- 10 これも直後の一文が理由説明になっているが、その上で「どんな時も」は「辛い時や苦しい時」、「義母のことを思い出すと」は「(義母さんと)心に呟くと」というように、本文と問題の文が対応していることに気づく必要があった。
- 11 エは明らかにおかしい。もしこういった人物なら文章に起こすほどにその「生き方」を「信じきる」ことはないはずである。アは「よい結果だけを追求して」、イは「誰に対しても厳しい」が、義母の人物像を説明したものとしてはふさわしくない。強さ・厳しさ・前向きさというのはもちろんだが、子供たちを見捨てずに育て上げたのは真のやさしさではないかと感じられるだろう。

2

- 1 a 「酸素」は一画一画きちんと書くこと。とくに「糸」の部分の一画目から三画目はつづけ字にしないようにしたい。b 「照準」は「ねらい(を定めること)」、「快適」は「気持ちがよくて過ごしやすい」ことを表す。「適」の右側を「商」としないこと。
- 2 アは一見正しそうだが、「過剰な消費社会の論理に支配されることがない」なら、このような演説の必要はないので誤った内容だとわかる。「(なぜ)、ムヒカ大統領はこんなことが言えたのか」という問いかけからあとの内容に注目することも大切であった。
- 3 指示内容を読み取る問題だが、指示語の直接さしているところが答えだとは限らない。傍線部を含む一文を読み、「私たちはどのような社会をつくってしまった」のかと考えて、字数に合った表現をさがせば容易であった。
- 4 本文の内容と照らし合わせてその選択肢が正しくても、問題に正解できるわけではない。問われていることは「どういう点」が「子ども」の「問いなのかということなので、その問われていることに答えたものを選びべきであり、アは明らかにおかしい。ウは「打算的に判断し」「無邪気で」がちがうし、エだと「非論理的な力強い言葉」だから「子ども」なのだということになってしまう。
- 5 「——線⑩よりあとの本文中から」さがすという指定が大きなヒントだが、どういことが問われているかが把握できていなければ答えを見出すことはできない。問題文をくり返し読み、どういう答えが求められているのかをきちんと考える必要がある。
- 6 傍線が引かれているのはムヒカの演説中にあることばだが、問われているのは「筆者」の考えであることに注意したい。二つあとの段落に「現在起きている問題は」とあり、この一文を読めば「：欲望と、：欲望が共振して起きている」とつながる。
- 7 ここでは問6と対照的に、ムヒカの考えを答えなければいけない。ムヒカの演説そのものは範囲が限定できるので、そこをしっかりと読みなおすだけで書くべき内容が見えてくる。演説の続きのところに、「私たちが実行した社会モデル」が問題であり「見直さなければならぬのは私たちの生活スタイル」である、と書かれている。その内容に「自分たち」という指定のことばを重ね、さらにそれを具体化するために、初めに書かれた演説のところを読みなおすことができれば、いよいよ答えの全体像が見えてくるだろう。
- 8 アだけ「勧誘」を表す「よう」で、あとはすべて「ようだ」「ような」などの「よう」だけに傍線が引かれているものである。⑦は「まるで」と呼応させるとしっくりくる「たとえ」の「よう(な)」で、⑨は「たとえば」が合う「例示」の「よう(に)」である。イ「よう(だ)」はもちろん比喩なので「たとえ」、エ「よう(な)」は具体例なので「例示」である。ウは「不確かな断定」を表す。
- 9 「部分」の話なのであるが、人間が無限の発展を求める以上、技術革新で解決できるのは一時的なことだと言っているのである。
- 10 副詞の呼応の問題。Aには文末の「：か」と、Bには文の途中の「：…としても」とそれぞれ呼応することばがあてはまる。
- 11 傍線部を含む一文を読むことの大切さを再認識したい問題。その文頭に「だからこそ」とあるのだから、直前の文との因果関係は明白である。あとはそれを字数の制限に合わせて、上手にまとめ上げていけばよいのである。

以上